

申請者: 藺部 靖史

論文題目 企業の社会貢献活動のコミュニケーション効果:  
事業領域との適合性による信頼の向上

審査員 松井 剛  
谷本寛治  
田中一弘

本論文は、企業が社会貢献活動を実施することで消費者の間にどのようにして信頼が高まるのかという問いを実証的に検討した研究である。

本論文の貢献は、次の3点である。第1の貢献は、社会貢献活動のコミュニケーション効果という重要かつ未開拓の研究領域を先駆的に示したことである。社会貢献活動が企業への信頼を高めるという認識は一般になされているが、この問題を直接的に実証した研究は欧米でもそれほど多くなく、日本ではほとんど行われてこなかった。

第2に、事業領域と適合性が高い社会貢献活動が企業への信頼向上に貢献することを実証的に示したことである。通常、企業の信頼は本論文で言う信用(誠実さ)を指すが、本論文では信用に加えて能力(優れた製品を提供する能力)もまた信頼概念に含まれると考える。このような包括的な信頼概念に基づいて、社会貢献活動のもつ利他性が信用の向上に寄与し、同活動の事業領域との適合性が能力の向上に寄与するという概念的枠組みを実証することに成功している。

第3の貢献は、消費者に対する質問票実験においてユニークな調査デザインが採用されていることである。先行研究の検討と企業への聞き取り調査を踏まえて設計された質問票実験では、架空ではなく実際に行われている企業の社会貢献活動を提示物として採用している。提示物の設定や統制が注意深く行われているため、提示前と提示後の被験者の知覚上の信頼の変化を測定することに成功している。

しかしながら、本論文に問題がないわけではない。第1に、仮説構築において、根拠となる論理の展開と、その背景にある理論の整理および事実の提示に問題があるため、説得力に欠ける部分が見られる。実証研究の緻密さに比して惜しまれる点である。第2に、先行研究が行われた当時の時代背景や文脈を考慮していないが故に、その解釈、評価が妥当でない部分が見られる。第3に、企業への聞き取りデータに関して、回答者の見解を丁寧に吟味することなくそのまま仮説の補強材料に用いている部分がある。

以上のような課題を残しているものの、本論文の貢献はこれらを補ってあまりあるものである。よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。